

1 實際寺本堂、客殿、鐘楼、納屋、山門、外塀及び石垣 6件

(1) 所在地 倉敷市中島字村内北町516

(2) 所有者 實際寺

(3) 概要

慶安2年(1649)に建設された本堂は、境内中央に東面して建つ木造平屋建てである。屋根は入母屋造の本瓦葺で、両端に鬼瓦を置き、鯨を載せる。正面3間、側面2間の規模で、正面及び南側面に縁を廻す。柱の面取りは大きく、木鼻や実肘木の渦の彫りが浅く、線が細い等、江戸時代前期の特徴を見せ、かつ建築年代も明確であり、貴重である。

本堂の北東に立つ客殿は、木造平屋建てである。屋根は入母屋造で茅葺き金属板仮葺きで、三方に本瓦葺の下屋を廻す。江戸時代末期の建築と考えられる。

境内の南寄り、本堂の南東側に位置する鐘楼は、方一間で、入母屋造の屋根は本瓦葺であり、近世の部材を一部再利用している。棟札から明治12年(1879)に建築されたことが明らかで、大正15年(1926)の修理に際して境内西の墓地から現在地に移築された。

明治17年頃の建設と伝わる納屋は、境内南東の敷地境に建ち、山門と並び建つ。木造二階建てで、本瓦葺とする。

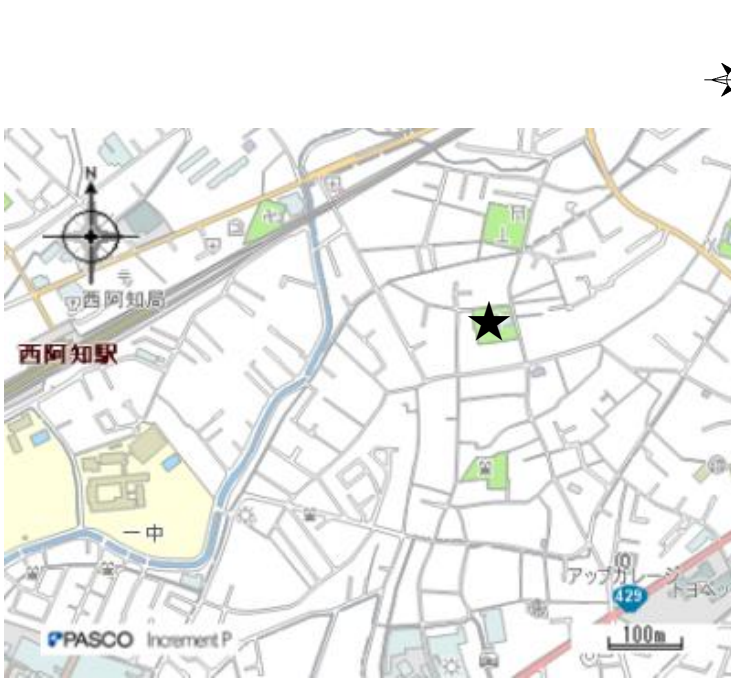
境内の南東側に南面して建つ山門は、本柱2本を正面に立て、奥に控柱2本を備えた薬医門である。切妻造の屋根は本瓦葺とする。棟札から明治17年(1884)に移築されたと分かる。

境内の東辺及び北辺の道路境には外塀及び石垣が巡り、境内の外周を整える。外塀は棧瓦葺の木造屋根が載る土塀で、納屋北東角から北に延び、北東隅で西に折れ、北辺では一段低い屋根付き土塀となる。

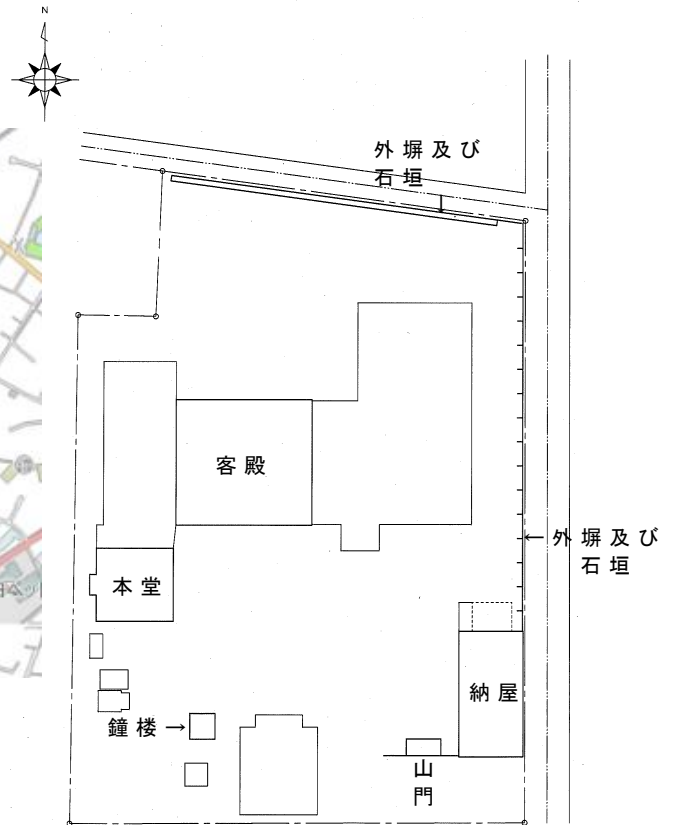
(4) 登録基準

一、国土の歴史的景観に寄与しているもの(本堂を除く)

二、造形の規範となっているもの(本堂)



位置図



境内配置図



本堂外観



客殿外観



鐘楼



山門



納屋外観



外塀及び石垣